

献 辞

林田伸一先生は、2024年3月末をもって文芸学部ヨーロッパ文化学科・大学院ヨーロッパ文化専攻を去られます。1998年4月のご着任以来、実に26年間の長きにわたる本学でのご功績とご尽力への感謝のしるしとして、本『ヨーロッパ文化研究』第43集を捧げるとともに、学科を代表して先生への御礼の言葉を記したいと思います。

林田先生は、東京外国語大学外国語学部フランス科をご卒業後、東京大学大学院人文科学研究科に進まれました。研究の道に進むきっかけは、先生ご自身のお言葉を借りるならば、大学一年生の秋に出会ったトクヴィルで、その主著『アンシアン・レジームと革命』がフランス史研究への道を開いたとのことでした。その後、1984年に東京都立大学人文学部へ奉職され、東洋英和女学院大学人文学部（1995年より学部改組のため社会科学部）を経て、1998年に本学に着任されました。

トクヴィルに導かれた林田先生のご研究は、一貫してフランス絶対王政（＝アンシアン・レジーム）の支配・統治構造を解明しようとするものでした。ことに、未刊行の手稿史料を駆使して地方行政の実態に迫ったご論考の数々は、中世とも、近代ともことなる近世国家の一側面を地方という場から明らかにするもので、この領域を専門とする後進研究者のよき参照軸となっています。徹底した史料調査と緻密な実証プロセスに支えられたオーソドックスな制度史・行政史研究は、目新しい分析視角や方法論が目まぐるしく入れ変わる歴史学界にあっても、着実な研究成果として長く継承されていくに違いありません。

こうした高度な専門研究と並んで、先生の幅広い知見を示すお仕事として、

フランス史の通史や入門書類があげられます。誰もが図書館で目にする『世界歴史体系・フランス史』（山川出版社、1996年）、『世界各国史・フランス史』（山川出版社、2001年。「山川セレクション」として2021年に新装版も刊行）、さらに社会人や学部一年生にも最適な「世界史リブレット」シリーズの『ルイ14世とリシュリュー』（山川出版社、2016年）などは、この分野に関心をもつ一般読者への優れた道案内として今後も読み継がれていくことでしょう。

林田先生はまた、よき教育者でもありました。オムニバス形式の講義や実習科目の組み立てから論文指導の方法、卒論口述試験の進め方など、同じ歴史系教員として先生から学んだことは数え切れません。とりわけ印象的だったのは、バリエーションに富んだ講義資料です。中世のジャンヌ・ダルクから20世紀フランス共和国の政教分離まで、内外のフランス史研究の成果を盛り込みつつ、画像や小説の一部などを巧みに史料として用いながらわかりやすく伝えていくやり方は、まさにヨーロッパ文化学科の学生の関心にぴったりでした（その一端は、本学科刊行のシリーズ「ヨーロッパの文化」（全5巻）に寄稿された「フランス革命下のパリ」（『ヨーロッパと都市』所収）、「フランス革命と女性」（『ヨーロッパと女性』所収）にもみることができます）。

もうひとつ、学生の主体的な学びを引き出す「仕掛け」として林田先生から学んだものに、「なりきりコメント」（と私が勝手に命名）があります。例えば、「もしあなたがアンシアン・レジーム下の身分制社会に生きていたとしたら…」と学生に問いかけ、当時を生きる人々になりきってコメントを書いてもらうというもので、早速自分の授業でも試してみたところ、学生たちに大好評でした。このように、あらかじめ答えを与えるのではなく問いを投げ

かけて学生自身に考えさせる指導法、誰に対しても公平無私な態度、そして何より先生の穏やかなお人柄を間近から拝見するにつけ、学ぶところ実に大でありました。

組織運営に関わる林田先生のご功績については多言を要しないでしょう。私が着任した時、すでに先生は数多くの重責を担われておりました。共通教育センター長（2011～2015年）、教務部長（2015～2019年）、文芸学部長（2019年～現在に至る）を歴任され、ここ十数年間は、本学科・専攻のみならず、学部および大学に欠くことのできない存在として、まさに求められる人でありました。様々な難題や厄介ごとが絶えず降りかかる中で、いつも通り穏やかに淡々と校務をこなし、ともすると険悪な雰囲気になりそうな会議も絶妙なバランス感覚でおさめていく先生の手腕にはいつも驚かされました。冷静沈着な判断力と全体を見極める洞察力は、トクヴィルの透徹した観察眼への関心から始まった、長きにわたる研究生活の中で培われてきたものなのかもしれません。

林田先生が去られることになった今、これまで様々な仕事を一緒に、ことあるごとに先生に相談してきた立場からしますと、突如、羅針盤を失うような気がいたします。不安は尽きませんが、私たちが先生から受け継いだバトンをきちんと繋いでいけるよう、今後も見守っていただければ幸いです。どうぞお元気で、そして、四半世紀余りにわたって本学科・本専攻の教育・研究のために力を注いで下さり、本当にありがとうございました。

中野智世